

「税についての作文」 「税の標語」

全国納税貯蓄組合連合会並びに国税庁が主催した中学生の「税についての作文」、「税の標語」。本町から作品を応募した神崎中学校3年の野口華子さんが全国納税貯蓄組合連合会優秀賞を、高橋茉歩さんが神崎町長賞を、飯田みのりさんが香取地区教育委員会連絡協議会長賞をそれぞれ受賞し、標語では、石橋優香さんが優秀賞を受賞しました。

野口華子さん、石橋優香さんの作品を紹介します。

【標語】優秀賞

みんなの税 輝く未来へ 歩みだす

神崎中1年 石橋 優香



野口 華子 さん



石橋 優香 さん

【作文】全国納税貯蓄組合連合会優秀賞

次は私たちの番

神崎町立神崎中学校3年 野口 華子

「調布」という街がある。東京へ出掛けた際電車の乗り換えで駅に降りたことがあった。調布という字に布、で調布である。この町には、何か布に関するものがあるのだろうか。こういった意味の地名なのだろうと思い、調べてみたことがある。その結果、自分が考えていたこととは少し違った由来だと分かったのだ。

調とは奈良時代の税「租・庸・調」の調のこと、布は、調として納めていたものが布だったから、という由来である。租・庸・調については歴史の授業で習っていた。「調」はその地の特産品を成年男子が都まで運ぶという税だ。布に関係があるという点では自分の考えもあながち間違いではなかったが、税のことが由来だとは考えもしなかった。

私は思った。「税」だけで一つ地名ができてしまうのだろうか。今でこそ納税をすることは当たり前だが、昔の人々にはそれが特別なことだったのだろうか。私は昔の税について知りたくなり、歴史の教科書を読み直してみた。

まず、奈良時代の租庸調。税を都まで運ぶ途中で人が死んでしまうこともあり、人々にとっては大変な負担だったようだ。次に豊臣秀吉の太閤検地。農民に耕作権を認めるかわりに年貢として米を納めることを義務化した。江戸時代になると収穫量の四、五割を納めな

ければならず、百姓たちは不満をつのらせた。そのため、百姓一揆が度々起こったという。そして明治になると地租改正により税を現金で納めるシステムが導入、といったところで、私たちに身近な税「金」に変わっていくのである。

こうして振り返ってみると、思っていたより日本の税について教わっていたのだとわかる。そして税が今の形になるまで、一揆を起こした人や税の制度を考えた人など様々な時代の人々が関わってきたのだと感じた。さらに昔の人々は時代にもよるが税を納めることに大変苦勞をしていたのだと分かった。税の制度が変わるたび、反対運動が起きている。納税に苦しんだ人がいる。苦しんだから、考えた人がいる。その考えに賛成し、運動を起こした人がいる。そのくり返りで「税」というものは形作られていったのだ。

そして、その奮闘は今も続いている。最近なら消費税の引き上げに関して政治家たちが話合っているのを見かける。まだ、自分は税について詳しいことを知ってはいらない。しかしそのようなことはもう言っていられないのだろう。

次は、私たちの番だ。その時になって困らないように、今から「税」について学んでいかなければいけないと思うのだ。人々が未来に残したものを、無駄にしないためにも。